

JACROW #16

パブリック・リレーションズ

脚本 中村ノブアキ

登場人物

クインテットPR

富野陽一 (32) CEO

庄内翠 (28) 社員

江渡伸悦 (31) 社員

小峯久美子 (32) 社員

古元誠道 (37) 社員

東京テレビ

衿川蔵人 (51) P

佐久風介 (36) AP

榛葉明華 (35) AP

舞台には会議室があるのみ。
会議室は2つの会社のそれを兼ねる。クインテットPRと東京テレビである。
会議室には会議用テーブルと椅子。
奥と上手にドアがそれぞれある。
奥のドアは廊下が続いている。

2つの舞台が交互に展開する。
クインテットPRはA、東京テレビはBとする。

#A1

江渡、久美子、古元、翠が登場、席に着く。
最後に富野がやってくる。
全員、富野に注目。

富野 (一呼吸おき) いよいよ今日からこの会社の歴史が始まる。クインテットPRは俺の会社じゃない。俺たちの会社だ。名目上俺が代表ってなってるけど、それはあくまで名目上。実際はみんなひとりひとりがこの会社の未来を作る立場にある。(チラチラとお互いの顔を見る社員) そのくらいの気概と覚悟を持って、全力で仕事をして欲しい。

頷く者がいたり、返事をする者がいたり。

富野 だから思ったことは遠慮せず、何でも言い合える会社にしよう。みんながいいと思ったアイデアはど

んどん採用する会社にしよう。そういうことを積極的に言い合える会社にしよう。それがCEOとしての俺の唯一の願い。…改めて言うことでもないけど、これからはますますPRが注目される時代になる。テレビCMでモノが売れる時代は終わった…まあこんなこと、代理店にいた古元さんや翠には釈迦に説法だけど。

2人、微笑む。

富野 つまり大袈裟に言えば、これからは戦略的PRに目を向ける企業だけが生き残っていく。そういう時代になるんだと思う。俺たちを必要とするクライアントは間違いなく増える。増えていく。断言する。俺たちの選択は間違っていない。クインテットPRの創業メンバーであることを誇りに思う日がきつとくる。だからどうか…この会社を信じて欲しい。

江渡 そうだよな。
富野 そうそう。

江渡 正直言うと、みんなを誘ったこと、ホントに良かったのか不安になることがある。この会社がうまくいくって保障はどこにもない。あるのはただの自信だけ。根拠のない自信じゃない。さっきも言ったけど根拠はある。PRの時代が来るといって根拠。根拠はあるが…保障はない。そのまま(古元や翠は)代理店にいたり、(久美子は)メーカーだったり、(江渡は)制作会社にいた方が良かったかもしれない。そ

う思うことがきつとある。(苦笑しながら)それは保障する。苦勞するかもしれない。いや苦勞する。絶対。間違いない。(苦笑しながら)それも保障する:それでも今ここにいる5人が力を合わせれば、乗り越えられないハードルはない。俺はそう信じてる。それだけの熱意と能力ある人間だけを集めた:つもりだ。

一同、照れ笑い。

富野

一緒に頑張ろう。クインテットPRをでっかい会社にしよう。社員は、そうだな、百人以上、売上も百億以上の会社だ。

江渡

それはでかい。夢はでかい方がいい。やりがいがある。

富野

その通り。

古元

はい。

江渡

頑張りよう。

富野

はい。

一同

今日から俺たちは、同じ夢に向かって走るチームだ。

富野

はい。

一同

クインテットPRをでっかい会社にしよう。

翠

わかりました。

頷く一同。

富野

よろしく願います。

富野、深々と頭を下げる。

一同拍手。

富野、顔を上げると一同ストップ。

富野

JACROW #16 パブリック・リレーションズ。

富野、翠、古元、去る。

江渡、去り際、久美子に声を掛ける。

江渡

小峯さん。

久美子

？

江渡

なに？江渡さん。

久美子

呼び捨てでいいですよ。もう同じ会社なんですから。

江渡

(笑)なんか変な感じ。

江渡

よろしく願います。先輩。

久美子

先輩かー。

江渡

先輩です。

久美子

こっちこそよろしくね。

江渡

はい。ところでもう吹っ切ったんですか？

久美子

なんのこと？

江渡

富野さんのこと。

久美子

：

江渡

2人が付き合ってたの知ってました。

久美子

：

江渡

PR会社の営業とクライアントの広報ってドラマチックじゃないすか。うちの会社の人、みんな知って

ましたよ。

久美子 そう。

江渡 でも別れたんですよね。

久美子 まあね。

江渡 やっぱり。

久美子 だから？

江渡 いや。これから同じ会社で働くわけじゃないすか。

久美子 うん。

江渡 だから知っておいた方が、色々やりやすいかなって。

久美子 色々ってなによ？

江渡 まあそりや色々？

久美子 別れたの、一年前だからね。今回、転職決めたのと

江渡 まったく無関係だから。

久美子 え？

江渡 公私混同されてもいやですから。

久美子 もちろんよ。

江渡 会社のために。頑張りましょ。

久美子 お互いね。

江渡、去ろうとする。

久美子 江渡さん。

江渡 ?

久美子 あ、江渡、くん。

江渡 なんすか？

久美子 みんなには言わないで。

江渡 …言いませんよ。

久美子 もう終わったことだからどうでもいいんだけど、変

に気を遣わせんのもやだから。

江渡 分かっています。

久美子 ありがとう。

江渡 それだけですか？

久美子 ええまあうん。

富野、出てきて、

富野 (2人に) 一瞬いい？ (久美子に) この後、空いて

るよね？

久美子 (江渡をチラリ) はい。

富野 営業、一緒に行かない？

久美子 え？ああ、うん。

富野 家電業界詳しいじゃん。

久美子 そりやまあ10年も働いてたから。

富野 パナの広報と会えることになってさ。

江渡 へえ。

富野 小峯の知識がはまるんじゃないかと思って。

久美子 分かりました。

富野 OK。じゃあ5分後に1階で。

久美子 はい。

江渡 富野さん。

富野 ?

江渡 頑張ってください。

富野 おお。

富野、去る。

久美子、江渡を見る。

江渡 早く行った方がよくないすか。

久美子、去る。

江渡、ため息をつき、去る。

#B1

衿川、佐久、明華、登場。衿川、携帯を操作し始める。

側に立っている佐久と明華。緊張した面持ち。

衿川

(電話)東テレの衿川だけど、高木さんいる?...(声を張り)東京テレビの衿川:(舌打ち)ああタカさん?俺。そう。あのさ、わりんだけどサーチの収録、2時間ばかり後ろに倒してくんないかな。え?ああいやそれはわかってんだけどさ。実はうちのアシガさ、時間間違えて連絡入れちゃったみたいなんだよね:うんそう事務所に。そう。有吉さんの入り遅れんだって:ごめんね:しょうがないっしょ。肝心のMCがいないんだから:申し訳ない。ヒラさんにもよろしく言っといて。はい:(思い出したように)ああそれから。さっき電話取ったのいるでしょ。タカさんに繋いでくれた。男。うんそう:その、コバヤシくん?俺のことわかんなかったみたいだからさ、ちよっと教育しといて。うん:(笑)ああじゃ

あ今度その写メ送ってくれる?::はい。じゃあそれ楽しみにしてます。はいどうも。

衿川、電話を切る。

明華

(頭を下げる)申し訳ありませんでした。

しばし沈黙。

衿川

佐久。

佐久

はい。

衿川

お前、どういう教育してんの?

佐久

すいません:15時を5時と間違えたみたいです。

明華

はい。

衿川

(明華に)バカ?

明華

すいませんでした。

衿川

いつからうちの局は小学生探るようになったんだよ。

明華

もう二度と同じ間違いはしません。

衿川

当たり前だよ。

明華

はい。

しばし沈黙。

衿川

(腕時計を見て)企画持ってきた?

明華

え?あはい。

衿川

見して。

明華、企画書を差し出す。

衿川、それを無造作に見る。

富野 いやいやこちらこそ、お忙しいところホントすいま

せん。もう大丈夫なんですか？

衿川 ええまあ何とか。でもちよっとしかないですけど、

いいですか？

富野 ええもちろんですよ。

すいませんね。

衿川 えっと、まずご挨拶…。

富野 ああはいはい。

それぞれ名刺交換を始める。

転換。

富野、会社説明をしている雰囲気の中、衿川と

佐久、去る。

A 2

富野、翠、久美子、深刻に会議している。

富野 え?...なんだって？

翠 明日のサーチの内容が変更になったそうです。

富野 ちよっと待て。どういうことだよ？

翠 今は尖閣問題で、オンエアできないって言われまし

富野 た。

翠 は？

富野 Pの判断だそうです。

重い沈黙。

久美子 田村屋さん、明日、まるごとサーチに特集されるか

らって、流通にかなり押し込んだみたいです。ハー

フ肉まん。大クレームになりますね。

富野 分かっているよそんなこと。

久美子 すいません。

富野 ああ参った...そもそもさ、内容変更になりましたっ

て言われて、ああそうですかって引き下がったの

か？

そんな簡単に引き下がるわけないでしょ。毎日通っ

てやっと採用になったんだよ。考え直してくれって

何度も頼みました。

富野 だってらさ、代わりの番組引っ張ってくるとかさ、

転んでもタダじゃ起きないのが、プロのPRマンな

んじゃねえの？

翠 サーチが無理だったら、ハッケンとかさ、東テレの

生活情報番組、他にあんだらうよ。

富野 ...今からやろうと思っちゃいました。

翠 遅い。そういうリカバリーションがないとクライア

ントに報告できないだろ。

富野 すいません。

社長連れて中華街までロケ行ったんだぞ。今更露出

できませんでしたって言えないよ俺。

しばし沈黙。富野、深いため息。

富野 しっかりしてくれよ。頼りにしてんだからさ。
翠 すいません。

久美子 どうしましょう？

富野 ……謝るしかないだろ。流通まで巻き込んだらだ。
早いほうがいい。

久美子 はい。

富野 この後すぐ電話入れろ。

久美子 はい。

富野 対応策は追ってご提案しますって言え。

久美子 分かりました。

富野 (翠に) 頼むよ。

翠 ……はい。

富野 (独り言) なんでこうなるんだ？

久美子 富野さん。

富野 ん？

久美子 東テレ行ってきます。

富野 え？

久美子 衿川さんにもう一度お願いしてきます。

富野 え？それはだって(翠が)。

久美子 翠ちゃんだけよりいいと思うんです。

富野 ……

翠 どういうこと？

久美子 こちらの事情もちゃんと分かってもらった方がいいんじゃないかと思うんです。

翠 それは私が何度も説明したよ。

久美子 そうかもしれないけど、でも伝わってないかもしれないじゃない。

翠 え？私が悪いってこと？

久美子 そうじゃないけど、でも実際こうなっちゃったわけだし。

翠 だからこうなったのは私の力ではどうしようもない事態になったから。

久美子 翠ちゃんが悪いって言うてるわけじゃないの。私も力になりたいの。この会社のために。

翠 ……

久美子 (富野に) いいですよね？

富野 やり方によってはかえって逆効果になることもある。

久美子 分かっています。

富野 (翠に) 大丈夫かな？

翠 ……私も行きます。

久美子 え？

翠 この案件、私メインだし。衿川さんの性格、よく分かっているし。

富野 そうだな。翠が一緒だったら。

久美子 じゃあ行ってきますね。

富野 分かっているとと思うけど、衿川さんは俺たちの大事なパイだぞ。絶対に粗相のないようにな。

久美子 分かっています。

富野 うん。

久美子、会議室を出る。

続いて出ようとする翠に対し、先回りし、ドアを閉める富野。

富野 今日、そっち行くよ。

翠 (相好崩し) 分かった。

富野

赤と白。

翠

赤。

富野

了解。1本買って行く。

翠

ありがとう。

富野

じゃあまた後で。

翠

うん。

富野、ポンとボディタッチ。

翠、笑顔になり会議室を出る。

廊下で立ち止まっている久美子。

悔しそうな様子。そこに江渡が現れる。

江渡

どうしたんですか？

久美子、無視して去る。

それを心配そうに見つめる江渡。

翠と江渡が廊下で出会う。

江渡

社長（中に）いる？

翠

いるよ。

江渡

なんかありました？

翠

どうして？

江渡

いや何となく。

翠

まあちよつと。今から（ゴルフスイング）リカバリ

江渡

ーショット。

翠

ナイスオン。

ありがとう。

と言って翠、去る。

江渡、会議室を覗き込み、

ちよつといいですか？

いいよ。

富野、江渡、椅子に座る。

江渡、なぜか富野の近くに。

（笑）近いな。

あ、すいません。

と言って離れようとする。

いいよ別に。

あ、はい。

（座り直す江渡を待つて）なに？

はい。えつと、さくらカフェなんです。

お、返事来た？

はい…すいません。

負けた？

はい。さつき吉田部長から電話もらいました。

それで？

プレゼンに対する御礼と、他社に決めたということ

でした。

どこだよ？他社って。

ソーシャルワークスだそうです。

重い沈黙。

富野 絶対勝てるって、古元さん言ってたよな？

江渡 すいません。

富野 古元さんいる？

江渡 今ですか？

富野

江渡 ここに来る前はいましたけど。

富野 呼んできてくれる？

江渡 え？

富野 古元さんから話聞きたいから。

江渡 はい。

江渡、会議室を出る。

富野、机を叩く。悔しそうな様子。

古元、江渡が会議室に入る。

失礼しますとかなんとか言いながら。

2人、座る。

古元 聞きました？

富野 負けたそうですね。

古元 いやー申し訳ない。絶対勝ったと思ったんですけどね。

富野 プレゼンの前、吉田部長と飲み行ってますよね？

古元 行ってるね。

富野 そこで握ってきたんですよね？

古元 握ってきたよ。

富野 うちを勝たせてくれるってことですよな？

古元 裏で手回してくれるって間違いなくそう言ったよ。

江渡 銀座で豪遊ですもんね。そのくらいやってもらわな

いと。

古元 豪遊って。接待も仕事だからな。

江渡 分かっています。

富野 交際費50万が豪遊じゃなくてなんなんだ。

江渡 え？50万？

富野 しかも2人で。

江渡 すごいっすね。

古元 交際費のこと言ってるんですか？

富野 いやいやそうじゃない。50万は別にいい。一千万取

るための投資なんだから。

江渡 でも取れませんでした。

古元 文句なら俺じゃなく、クライアントに言ってくださ

いよ。裏切られたわけですから。

富野 ；疑うわけじゃないけど、ホントに部長と握ったん

ですよな？

古元 嘘だっけ言うんですか？

富野 確認です。

古元 クイーンテットPRが勝つよう根回しするって言質取

りましたよ。

富野 ですよな。

古元 証拠出せって言われても、書面にはしてないけど。

富野 それでも負けた。

古元 だから裏切られたんですよ。

富野 ；；という事は簡単に裏切られるような関係でしか

なかったってことですよな？

古元

：

ソーシャルワークスがうちより圧倒的にいい案だった。だから吉田部長は社内を説得できなかった、とか？

古元 (笑) もしくは接待で、うちよりもっといい店行ったとか？それで逆に… (富野睨む) 冗談ですよ。

意心地の悪い空気。

富野

なんで古元さんうちに来たんですか？

古元

え？

富野

そのまま代理店にいて、安定した給料もらい続けても良かったわけじゃないですか？

古元

ちよっと待てよ。誘ったのそっちだろ。そうじゃなくて。じゃあなんでうちに来ようと思っ

富野

たんですか？

古元

どういうこと？

富野

なんで前の会社辞めたんですか？

古元

…江渡。

江渡

はい？

古元

お前はどうかなんだよ？

江渡

はい？

古元

なんでこの会社来たんだよ？

江渡

え？あ、えっと (富野をチラリ)。

古元

PRにやりがい感じたか？

江渡

もちろんそれもあります。

古元

も？…それも？

江渡

一番は、富野さんに付いていきたくなくなったことですかね…なんかすごいことになるような気がして。皮肉か？

江渡

え？

富野

確かにすごいことになってる。毎月赤字だ。

江渡

富野さんがそんなこと言っちゃダメですよ。

富野

そんなこと？

江渡

ネガなことです。

富野

じゃあ何て言えばいいんだよ？いつか努力が報われるときが来る。今は耐えて頑張ろう、か。

江渡

：

富野

交際費無駄遣いして、競合に勝てない社員に？

江渡

言い過ぎですよ。

重い沈黙。

富野

(古元に) なんで怒ってるか分かりますか？

古元

競合に負けたからだろ。

富野

もちろんそうですけど、そうじゃないです。

古元

交際費の使い過ぎか？

富野

：

古元

はいはい分かりました。これから気を付けます。

富野

もつと根本的なことです。

古元

根本的？

富野

負けたのに、なんで悔しそうじゃないんですか？

古元

何言ってるんだよ。悔しいよ俺だって。

富野

開き直ってるじゃないですか。

古元

：

富野

クライアントが裏切ったから、そう言いましたよね？そりやそうでしょうけど、なんでそれに対して平気でいれるんですか？

古元

平気じゃない。

富野

そう見えないんですよ。俺だけが熱くなって、肝心の古元さんは諦めてる。他人事みたいだ。

古元

…他人事だとは思ってない。

富野

だから聞いたんです。うちに何を求めて来たのかって…会社を大きくしたい。夢を実現したい。そういうことじゃなかったのかって。

古元

でもさ、夢じゃ食べれないからね。

富野

…そうですね。

古元

クビですか？

富野

…

江渡

そこまでしなくても…別に悪いことしたわけじゃないし。

富野

次こそは勝ってください。

古元

頑張りますよ。

富野

(去りながら)(江渡に)明日の朝会、絶対遅刻すんなってみんなに連絡しといて。

江渡

はい。

富野、会議室を出る。

江渡

ホントになんで負けたんですかね？

古元

なんでだろうな？

江渡

僕らの案、結構良かったと思いますよ。

古元

相手の方が良かったから負けたんだろ。

江渡

…古元さん。

古元

ん？

江渡

僕が言うのもなんですけど。

古元

なに？

江渡

そんなんじゃないつまでも勝てませんよ。

古元

…

江渡

すいません。生意気言って。

古元

いやいいよ。

江渡

俺、この会社好きなんです。

古元

ああそう。

江渡

絶対に成功させたいんです。

古元

俺だってそうだよ。

江渡

だったらもつと、なんていうか、

古元

分かったよ。

江渡

すいません。

古元

…飲み行くか？

江渡

え？

古元

気分転換。奢るよ。

江渡

すいません。

古元

行かねえの？

江渡

転換する気分じゃないす。

古元

…

江渡

すいません。

江渡、軽く頭を下げ去る。

古元、携帯を取りだし掛ける。

掛けながら、会議室のドアを閉める。

古元

(電話) いつもお世話になってます。クインテットPRの古元と言います。広報の吉田部長いますか？はい。古元です。部長、私です。はい。この度はホントにありがとうございます。はい。聞きました。バッチリです。はい。で、この後、行きませんか？もちろん3人で。え？。そんなもん決まってるでしょ。今度はソーシャルワークスさんに出してもらいますよ。

転換。

翠、久美子が神妙な面持ちで入ってくる。

古元、電話で話ながら来る。

入れ替わりに明華が入ってくる。

#B2

明華、椅子に座りながら、

明華

衿川はすぐ来るから。

翠

ごめんね。

明華

：明日のサーチの件でしょ？

翠

うんそう。もう決定だったことは分かってるんだけど。

明華

そうね。申し訳ないけど。

翠

だよ。

明華

バラエティだけど、一応情報番組だからね。

久美子

私からもう一度お願いしたくて、庄内に頼んだんです。

明華

そうですか。でも無駄だと思いますよ。プロデューサー判断ですから。

久美子

：それで明華さんをお願いなんだけど。

翠

なに？

明華

ハッケンのP、紹介してくれないかな？

翠

ハッケン？

明華

うん。他の情報番組あたりたくて。

翠

そりやそうだよ。

明華

うちルートないのよ。

翠

分かった。

明華

ありがとうございます。

翠

急ぎ、だよ？

明華

うん。お願い。

翠

じゃあこの後でいい？

明華

もちろん。ありがとうございます。

翠

いいえ。この前の御礼。

明華

良かった。おしゃれなとこ連れてって。

翠

あそこのイベリコ、ホント美味しかったよ。

明華

うんホント美味しかった。(久美子に)この前、2人

翠

で行ったんですよ。十番の、えっと、なんでしたっ

明華

け？

翠

プリムラ。

明華

そう。ラ・プリムラってイタリアン。

翠

あ、そう。

久美子

行ったことあります？

久美子

あ、いや私は。

翠 あそこホント美味しいから行ってみて。オススメだから。

久美子 (生返事)

明華 ねえ。今日、行かない？

翠 今日？

明華 うん。あ、良かったら小峯さんも。

久美子 ……

明華 3人で。ダメ？

久美子 私は今日はちよっと。

明華 え？それは残念。

翠 明華さん、ごめん。

明華 え？

翠 私もちよっと今日はNG。

明華 デート？

翠 ああ、いやー。

明華 デートだ。

翠 ああまあいやー。

明華 例の？

翠 それは、今は止めて。

明華 (笑)ごめん。

翠 ホント信じられない。

明華 ごめんねー。

久美子 翠ちゃん、彼氏いるんだ？

翠 もういいじゃないですか。その話は。

久美子 私の知ってる人？

翠 だから。

久美子 そのくらいいいじゃない。

翠 ……

久美子 私が知ってる人？知らない人？

翠 ……知らない人です。

久美子 ……そっか。

翠 はい…(明華に)久美さん、お酒飲めないんですよ。

明華 そうなんですか。

久美子 はい。あだから今日はダメってことじゃないですよ。

明華 じゃあ今度スイーツ行きませんか？ならいいですよ

ね？

久美子 別にいいですよどこでも。私が飲まなきゃいいだけ

なんで。

明華 私が行きたいんです。

久美子 それなら。はい。

翠 ねえ。ハッケンのPってどんな人？

明華 え？

翠 この後、紹介してくれるって人。

明華 ああ。

翠 どんな人が事前を知ったときたいから。

明華 大塚さんって言って、めっちゃ良い人。

翠 良い人？良かったー。大塚さん？っていうの？

明華 そう…衿川さんと違ってめっちゃ優しいから。

翠 優しい人、好きー。

明華 特に女子にはすごい優しいから。

翠 ホント？

明華 ホント。1ヶ月前、私ドラマ班からこっち来たじゃない？

翠 うん。

明華 バラエティのことなんかなんも分かんなかったんだ

けど、すごい親切に教えてくれたんだよね。

翠 へえ。

明華 衿川さんとは大違い。

翠 ああそう。

明華 来たばかりのとき、入りの時間間違えてミスやっちゃって、すっごい迷惑かけたの。スタッフに。

翠 あそう。

明華 そんなとき助けてくれたんだよね大塚さん。

翠 そうなんだ。

明華 逆になんにも教えてくれなかったから衿川さん。全部佐久さんに振って。

翠 :

明華 衿川さんて、なに考えてるか分かんないときない？

翠 (小声) いいの？そんなこと言って。

明華 もちろんここだけの話。

翠 :

明華 大塚プロデューサーってその逆で、

衿川が会議室に入ってくる。続いて佐久いきなりピツとする三人。

明華 お疲れ様です。

明華 お前、なにやってんのここで？

明華 衿川さん待ってました。

明華 俺さ、会議室に案内しろとは言ったけど、待っどけとは言ってないよね？

明華 え？

明華 タカさんたち、ずっと待ってるよお前のこと。え？

明華 明日の段取り確認しなきゃ帰れねえだろうがよー。

明華 可哀想に疲れてんのにさ。

明華 あ、すいません。

明華 謝んのは俺にじゃねえだろ。

明華 あ、すいませ…失礼します。

明華、急いで去る。

明華、持ってた台本で佐久の頭を小突く。

明華 教育係。すいません。

明華 頼むよ。

明華 はい。

明華 (翠・久美子に) すいませんね。変なところ見して。

明華 あいえ。

明華 (椅子に座りながら) 今の若い奴、こっちが言わないと動かないしよ。俺なんかときは自分から動いたのにさ。先輩の動き見て。

明華 そうですよ。分かります。

明華 おたくらもそう？

明華 私たちはできたばかりの会社なんで、先輩後輩とかないです。ね？

明華 はい。5人しかいないんで。家族みたいなもんです。

明華 家族っていうか兄妹ですね。あまあそれも家族か。

明華 そっか。5人しかいないんだ。もっと大きな会社だ

明華 って思ってたよ。

明華 これからの会社ですから。

明華 仲良いんだ？みんな。

明華 仲良いんだ？みんな。

久美子 もちろんです。

翠 まあ色々とありますけどね。小さいなりに。

久美子 (ムツとして) そうかな？

翠 あ、まあ仲良いです。はい。

衿川 佐久、お茶持ってきて。4つ。

佐久 はい。

翠 ありがとうございます。

衿川 冷たいのな。

佐久 はい。

佐久、会議室を出る。

衿川 えっと、話つてのは？

久美子 田村屋さんの件です。

衿川 え？

久美子 明日のまるごとサーチでハーフ肉まん特集していた

衿川 だけのはずだったと思うんですが、

久美子 ちよいちよいちよいちよちよちよ。

久美子 はい。

衿川 (翠に) それはもう決定だつて伝えたよね？

翠 伺ってます。

衿川 言つてないの？

翠 もちろん伝えてます。

衿川 え？じゃあなんで？

久美子 今回の特集、田村屋さんすごく喜んでくださつて、

衿川 お店にいっぱい卸したんでしょ。聞いたよ。

久美子 ですから内容変更、もう一度考え直していただけないでしょうか。

衿川、不機嫌になる。

久美子 確かに尖閣問題も重要なテーマだと思つんですが、

一度決めた内容を、

どうするかは俺の仕事。

険悪な空気。

衿川 え？なんで俺の仕事に口出しすんの？

翠 (慌てて) すいません。そういうつもりじゃないです

から。

衿川 じゃあどういふつもりだよ？

翠 明日は無理だつて分かつてるんで、次のタイミング

に検討していただけないかなつて。

衿川 だから、今は分かんねえつて言つたよね俺。約束な

んかできるわけないでしょ。時代は動いてんだから

さ。

翠 すいません。分かつてます。ですよね。

衿川 なんだよ。同じこと言うために来たの？

翠 お忙しいところホントすいません。失礼しました。

ホントだよ。

衿川 (立ちながら) 今日はもう失礼します。また後日改

めてお詫びに伺います。(お辞儀) すいませんでした。

翠 : 翠ちゃん、頑張つてるから応援してんよ俺。

ありがとうございます。

衿川 家族だつたらさ、もっとお互いコミュニケーション

してよ。ね。

翠 はい。仰ることよく分かります。

久美子 私がお願したんです。庄内はもう無理って言った

のですが、私がどうしてもってお願いしたんです。

それらの事情も分かるし、申し訳ない気持ちもある

けど、でもこっちにも事情があんのね。

久美子 もちろん分かります。

衿川 サーチの数字背負ってんの俺。

久美子 はい。

衿川 今何が求められてるか考え、番組作ってんの。それ

は申し訳ないけど、肉まんじゃないのよ。

久美子 (立ち上がって) 分かっています。分かった上でお願い

してるんです。衿川さんのお力で何とかならない

でしょうか。

衿川 俺が今言ったの聞いてた？

佐久、お茶を持って入ってくる。

久美子 お願いします。明日じゃなくてもいいんです。せめ

て一週間後、一週間後にオンエアしていただけない

でしょうか。

衿川 しつこいなあんた。

久美子 私たちみたいな小さな会社はひとつひとつが命がけ

なんです。今回の話潰すわけにいかないんです。お

願います。検討してもらえないでしょうか。

衿川

久美子 衿川さんだけが頼りなんです。お願いします。検討

してください。

しばし沈黙。

衿川 (腕時計を見て) この後、空いてる？

久美子 え？

衿川 空いてるでしょ。

久美子 はい。もちろん。

衿川 お酒飲める？

久美子 飲めます。

衿川 じゃあ付き合ってよ。

久美子 え？

衿川 俺を楽しませてくれたら、考えてやってもいいよ。

翠

久美子 ホントですか？

衿川 ただし、オンエアは約束できない。

久美子 構いません。

衿川 (立ち上がりながら) そういう必死な感じ、嫌いじ

やないよ。

久美子 ありがとうございます。

衿川、去りながら、

衿川 (佐久に) お前らも見習え。

佐久 はい。

衿川、去る。

久美子 (翠に) 行ってくる。

翠 はい。

久美子、去る。

翠　　なんかすいません。

佐久　　なんで？

翠　　なんか：無理強いしてるみたいで。

佐久　　それが仕事じゃないですか。

翠　　そうですね。

佐久　　時間、大丈夫ですか？

翠　　ええまあ少しなら。

佐久　　（お茶を置きながら）せっかくなんで。

翠　　すいません。

佐久、椅子に座り、続いて翠も。

佐久　　大変ですね。PRの仕事。

翠　　大変じゃない仕事なんてないですから。

佐久　　でもどっちかって言うと、大変な方じゃないですか？

翠　　そうですね？

佐久　　露出のためには何でもするでしょ。

翠　　何でもって。

佐久　　何でもですよ。

翠　　するわけないでしょ。

佐久　　そうですね？

翠　　売れない芸人じゃあるまいし。

佐久　　（笑）そうですね。

翠　　何でもはしません。

佐久　　そうですね。

翠　　企画がすべてだと思ってます。

佐久　　ああまあそうですね。

翠　　クライアントとメディアを結び付ける企画。私たち

PR会社にしかできない、やりがいのある仕事です。

でも露出できなかったらクライアントからお金もら

えないんですよ？

翠　　：多少は、もらえるときもあります。

佐久　　：もらえないときもある。

翠　　：多かったら露出のために何でもしませんか？

佐久　　：そういう意味ですか？

翠　　：しませんかね？

佐久　　：しませんよ。何言ってるんですか。

翠　　：そうですね？

佐久　　：確かにプロデューサーから飲み行こうって誘われ

たら断りませんよ。それも仕事ですから：例え用事

があっても、飲めなくても、飲みには行くとはい

ません。

翠　　：そういうのを大変ですって言ったんです。

佐久　　PRにとって人脈は財産ですから。

翠　　そうですね。

佐久　　小峯もそう判断しただけです。

翠　　それ以上を求められたら？

佐久　　え？

翠　　飲み行って、それ以上を求められたら？

佐久　　は？

しばし沈黙。

翠 どういう意味ですか？

佐久 僕が言ったって言わないんで欲しいんですけど。

翠 ……

佐久 いいですか？

翠 はあ。

佐久 衿川、去年離婚してるんですよ。奥さん、出てっちゃったみたいで。他の男んとこに。

翠 ……

佐久 寂しいと、そういう理性飛んじやうときあるんですよ。男には。

翠 ……え？なに言ってるんですか？

佐久 いやいや。僕は例え話をしています。

翠 はい？

佐久 仮に、飲み行って、それ以上求められたらどうしますかって話です。

翠 そんなん断るに決まってるじゃないですか。何言ってますか？

佐久 ですよね。すいません。変なこと聞いて。

翠 ああいえ。

佐久 小峯さんはどうしますかね？

翠 え？

佐久 衿川さんに求められたら。

しばし沈黙。

翠 (笑顔)。

佐久 はい？

翠 彼女も大人なんで、そういうことするんじゃないですか。

佐久 (笑) おおそうきますか。

翠 はい。まあいいんじゃないですかね。彼女の人生ですから。

佐久 ですよね。いいっすよね別に。減るもんじゃないし。

翠 (愛想笑い)。

佐久 だったらこの後、どうですか？

翠 え？

佐久 食事でも行きませんか？サシで。

翠 だったらってどういう意味ですか？

佐久 こう見えて僕、結構役に立ちますよ。プロデューサーの信頼、あ衿川さんだけじゃなく、他のチームのプロデューサーも含めてなんですけど、結構信頼されてるんで。

翠 そうなんですかー。

佐久 自分で言うのもなんですけど。

翠 自分で言っちゃってますね。

翠の携帯電話が鳴る。

佐久 (画面をチラリ) すいません。ちょっと。

翠 (どうぞ)。

佐久 (電話) 庄内です。あ江渡さん？…明日の朝会？分

る) すいませんでした。

佐久 いえいえ。

しばし沈黙。

翠 あの一…今日はやっぱりお断りします。接待なんで

す。クライアントの。

佐久 それは残念。

翠 すっごい行きたかったんですが。

佐久 仕方ないですよ。

翠 また誘ってください。次は、必ず。

佐久 ホントですか？

翠 はいもちろん。

佐久 じゃあ近いうちに。

翠 ぜひぜひ。あ、小峯や明華さんも誘って、みんなで行きませんか？多い方が楽しいじゃないですか。

佐久、不満そうに頷く。

翠 幹事、私やりますよ。

佐久 あ…でも…。

上手手前に古元が登場。携帯で発信。
佐久の携帯が鳴る。

佐久 (画面をチラリ) すいません (電話) はい。

古元 古元です。

佐久 ああはい。

古元 今、大丈夫ですか？

佐久 いや今打ち合わせ中です。

古元 じゃあ手短に。

佐久 ああ、はい。

古元 例のさくらカフェなんです。

佐久 はい。

古元 予定通り、勝ちました。

佐久 それはおめでとうございます。

古元 まるごとサーチ、仕込んでいただけのようですよね？

佐久 (翠をチラリ) 一週間後のトレンドコーナーで流しますよ。

古元 ありがとうございます。それ確認したかっただけなんです。それじゃ。

佐久 ああちよつと。

古元 はい？

佐久 つてことは例の約束も？

古元 当然。ソーシャルワークスに佐久さんの口座番号、伝えておきました。

佐久 ありがとうございます。

古元 それじゃ。

佐久 はい (切る)。

古元、笑顔になり去る。

佐久 失礼しました。

翠 いーえ。

佐久 えっと、何の話でしたっけ？

翠 みんなでご飯食べましょうって。

佐久 ああそうだそれぞれ。いいですねえ。行きましょう。

翠 ぜひみんな。

翠 良かった。じゃあ私、幹事やりますね。
佐久 お願います。
翠 はい。あこの後、明華さんと約束あるんで失礼しま
す。御馳走様でした。
佐久 ああいえいえ。

翠、いそいそと会議室を出る。
佐久、お茶を片付け、会議室を出る。

A 3

翠が欠伸しながら入ってくる。続いて江渡。
お早うございますとかなんとか言いながら。

翠 昨日、電話ありがとね。
江渡 え？
翠 すっごい助かった。
江渡 社長に連絡しろって言われただけです。
翠 ああそうだよね。
江渡 昨日遅かったんですか？
翠 わかる？
江渡 飲み会ですか？
翠 プライベートだけどね。
江渡 ああなるほど。彼氏？
翠 うんまあそんな感じ？
江渡 羨ましいです。
翠 ワインがめっちゃ美味しくてさ。飲み過ぎちゃった。
江渡 へえ。翠さんもワイン好きなんですか？

翠 知らなかった？
江渡 社長も好きですよ？ワイン。
翠 (一瞬間) え？あそうなんだ。へえ。
江渡 僕も好きなんで、今度3人で行きませんか？
翠 いいよ。

古元も疲れた顔で登場。
お早うとか何とか言いながら。

江渡 あれから行ったんですか？
古元 ああうん。知り合いとね。銀座。
江渡 また銀座ですか？
古元 またってなんだよ。会社の金じゃないんだからいい
だろうよ。
江渡 いいなあって思っただけです。
翠 古元さんのやり方、ちよつと古いかもかもしれませんね。
古元 俺の？いきなりなに言ってるんだよ？
江渡 飲んで繋いで裏取引って。もうそういうのやめませ
ん？
江渡 それ誰から聞いたんですか？
翠 昨日社長から。(古元に) さくらカフェ、負けたんで
すよね？
古元 ま、そういうことになるね。
翠 接待で作る人間関係なんて、所詮そんなもんなん
ですよ。
古元 所詮？そんなことないだろ。
翠 今の時代、PRこそ最大のソリューションだと思う
んです。

古元

ソリューションね。

翠 マーケティング課題をPRで解決する。さくらカフエが求めてたのはそういうことだったんじゃないですか？

古元

否定はしないよ。

翠

企画が良ければ、勝てたはずなんです。

古元

でも選ぶのは人間だからさ、企画の善し悪しだけで

江渡

決まるわけじゃないから。

翠 僕ら、最善尽くしたつもりなんですけどね。じゃあなんで負けたんだろうね。

富野が会議室に入ってくる。
それぞれお早うとか言いながら。

富野

小峯は？

江渡

まだ来てないですね。

富野

連絡は？

一同

：

富野

(江渡に) 昨日伝えたんだよね？

江渡 はい。遅れないようにって言いました。そんなときはなにも言っていなかったです。

翠

昨日、衿川さんと飲みに行ったみたいなんで、その

富野

せいかもしれないですね。

翠 おいおいふざけんなよ。それはそれ。これはこれだろ。

富野

それはもちろん久美さんも分かっていると思います。

古元

だったらなんで来てないんだよ？今。

古元

(笑) お酒飲めないのに無理したのかもな。

江渡

(笑) きつとそうですよ。

富野

おいちよつと待てよ…それでいいのか？そういうことでもいいのかよ？…今日の朝会遅れんかって伝えたのは、最近弛んでるって思ったからだ。小峯が遅刻してんのをなんとも思っていない。そういうことではないのかってことだよ…7ヶ月前を思い出してくれよ。クイントットPRを立ち上げて、みんなで頑張ろうって。そう言ったよな？(翠に) リカバリーショットが遅い、(古元に) クライアントに簡単に裏切られる、(江渡に) 朝会に遅刻する…どうなってんだ？一体。

しばし沈黙。

富野

それでもまだ、一生懸命やればいいよ。一生懸命やれば、いつか結果は付いてくると俺は信じてるから…俺はみんなと一緒に作ったこの会社を大きくしたい。それだけだ…言ったよな？社員百人以上、売上百億以上の会社にしようって。するって。みんなと一緒にその夢を叶えたい。それだけなんだよ…そう思ってるのは俺だけか？

翠

私は一生懸命やっています。社長と想いは一緒のつもりです。

江渡

僕もそうです。7ヶ月前と気持ちに変化はありません。

富野

ホントにそうか？

2人

はい。

富野

はい。

2人

はい。

富野 クインテットPRを大きくしたいって思っている

2人 か？
はい。

古元以外、微笑。

富野 OK。ならもう一度初心に戻って、気引き締めて仕事をしよう。な？

2人 はい。

古元 だったらお願いなんですけど。

富野 何ですか？

古元 給料上げてもらえませんか？

富野 頑張りますよそりゃ。一生懸命。会社のために。頑張りますけど、ボランティアやってるつもりないんで、それなりのお金もらわないと。

しばし沈黙。

古元 あれ？俺、変なこと言ってます？

江渡 変じゃないですけど。

古元 むしろ当たり前のこと、言ってるよね。

江渡 まあそうですね。

古元 (富野に) 江渡もそう思ってるみたいですよ。

江渡 なに言ってるんですか。やめてください。

古元 え？違うの？

江渡

古元 違わないでしょ。だってこの会社の給料、下がった

翠 じゃん。どういうわけか…翠ちゃんはどうか？

古元 私は…
企画ができれば満足？

翠

古元 お金は二の次？まさかね。

富野 給料に不満があるなら稼いでください。競合に勝つ

古元 てくださいよ。

富野 だから俺は、稼ぐために、原資が必要だと言ってる

古元 んです。

富野 俺もそう思っていました。でもこの半年、結果出していないじゃないですか。競合に負け続け。一体いくら

稼いだんですか？古元さんは？

古元 確かに全然勝ってない。それは申し訳ないと思って

た。

富野 過去形ですか。

古元 だからって給料下げられたら、モチベーションも下

がるよね。

富野 それは俺だって苦渋の決断をしました。できればそ

んなことはしたくなかった。

古元 でもした。

富野 言いましたよね。稼いでくれたら、また上げるって。

古元 むしろこの悔しさをバネに頑張っって欲しいって。

富野 逆ですよ。

古元 逆？

富野 バネになりません。

古元

しばし沈黙。

翠 私はバネになりました。頑張ろうって思いました。僕もそうです。だって会社あつての給料じゃないですか。

翠 そうよね。

江渡 (富野をチラリ) 業績悪いの、なんとなく感じてたし。

翠 この人(富野) 分かりやすいから。
(笑)

江渡 第一に会社を存続させること、私たちのお給料はその上で、

古元 本気かよ？給料下げられて頑張ろうって、本気でそう思ったんかよ？

江渡 いけませんか？

古元 給料下げられて頑張ろうって、それが本当にお前らの本心かよ？

翠 本心です。

古元 おかしいよお前ら。なにそれ？

江渡 だって僕らこの会社大きくしようって誓ったじゃないですか。百人以上の社員、百億以上の売上。そうですよね？

古元 ……
そのためには我慢しなきゃいけないこともあるんじゃないですかね。
しばし沈黙。

富野

申し訳ない。さつきも言ったけど、人件費を削ることとは俺の本意じゃない。会社を残すための緊急避難だと思つて欲しい。業績が上向けば必ず元の給料、いやそれ以上の給料を支払うつもりです。約束します…そのためには今、この逆境をみんなで共有して、すいません。

古元

古元、ポケットから辞表。

古元

付いていきません。

しばし沈黙。

富野

いつから？

古元

え？
こんなもん用意してるくらいだ。昨日今日じゃない

富野

だろ？
ああまあそうですね。

古元

いつから考えてた？
昨日、俺に聞きましたよね？なんで前の会社辞めた

富野

のかつて。
ああ。

古元

これ(お金)ですよ…先の見えてる会社の給料なんてたかがしれてる。だったら転職もありじゃないかって、そう思ったんですよ…正直、俺にとってこの会社がどうなるうと関係ないんです。社員百人？売上百億？どうでもいい。ぶっちゃけ興味ない…でも

富野 会社が大きくなれば自分の給料も上がるだろう、単純にそう思ったからなにも言わなかっただけです。だからいつから辞めようと思ってたんですか？

古元 1ヶ月前ですかね？

富野 9月？

古元 そうですね。

富野 さくらカフェのプレゼン、わざと負けたんですか？

江渡 え？

富野 そうなりません？だってプレゼンは一週間前だったんですから。そんなときはもう辞めようと思ってたんですよね？

江渡 そんなはず değildirよ。僕ら徹夜で企画書書いて、ふたりであーでもないこーでもないって。負けるつもりならあそこまでしません。

富野 企画書は、だろ。

江渡 え？

富野 吉田部長と銀座で、何を握ってきたんですか？

しばし沈黙。

古元 それは誤解だ。わざと負ける？そんなことするわけない。

富野 信じていいですか？

古元 ああもちろん。

富野 余計なこと言いましたね。すいません疑って。

古元 ああまあいいよ。

そこに久美子が会議室に入ってくる。

髪のもも乱れ、慌てて来た様子。
富野、辞表を隠す。

久美子 遅れてすいません。

富野 おい、なんで遅れた？

久美子 すいません。遅れるつもりはなかったんですが。

富野 今日は大事な話をしたかった。だから遅れんかって言っただ。

久美子 はい。

富野 お前も会社に不満があるのか？

久美子 え？

富野 あるならあるで言ってくれよ。そうやってやる気のない態度される方が腹立つんだよ俺は。

しばし沈黙。

久美子 やる気はあります。

富野 そう見えないんだよ。

久美子 だから…

富野 なんだよ？

久美子 ハーフ肉まんの露出、衿川さんの約束を、取り付けたきました。

富野・翠 え？

富野 おいそれ本当か？

久美子 はい。本当です。

富野 本当に本当に本当にホントなんだな？

久美子 はい。

富野 もっと詳しい話を聞かせてくれ。

久美子 はい。

と言つて、久美子、椅子に座る。

久美子

(深呼吸して) 昨日、衿川さんとふたりで食事に行きました。そこで今回の件について、徹底的に話し合つたんです。田村屋さんは東テレにとつても大事なスポンサーです。いい関係を続けた方が東テレにとつてもメリットになるはずだと説得しました。

富野

うん。それで？

久美子、手帳をパラパラめくりながら、

久美子

そしたら衿川さんから、田村屋さんの中国工場を口クできないかかって言われたんです。

富野

中国工場？

久美子

はい。ハーフ肉まん工場です。そこで働く人の画を撮つて、食文化と日中問題を絡めて特集にするのはどうかかって逆提案を受けたんです。

富野

食文化と日中問題？…尖閣問題にも繋がるし、田村屋さんにとつてもいい話かもしれない。

久美子

私もいい案だつて思つたんで、ぜひそれでお願いします。つて言いました。

富野

うん。

久美子

ロケ費もこちらで持ちますから、でもその代わりに、一週間以内に流してもらえないかかってお願いしたんです。

富野

うんうんうん。

久美子 一週間後のまるごとサーチのトレンドコーナーで流

してくれるそうです。

古元

！

富野

(ガッツポーズ) よし！よくやった。

久美子

ありがとうございます。

富野

よく頑張つた。

久美子

はい。

江渡

おめでとうございます。

久美子

ありがとう。

翠はなぜか不機嫌。

古元

久美ちゃん、それ昨日の話？

久美子

はい。昨日の夜です。

古元

サーチのトレンドコーナーって言ったの？

久美子

はい。

古元

来週なの？

久美子

そう言つてくれました。

古元

衿川Pが？

久美子

え？どうしたんですか？

富野

(久美子に) よくやった…古元さん、こういうこと

ですよ。こういうことを積み重ねていけば、必ず給

料は元に戻します。

古元

：

富野

だから考え直してもらえませんか？

久美子

何があつたの？

富野、隠してた辞表を古元に返そうとする。

久美子 え？

古元 (久美子に) 余計なことしやがって。

久美子

古元 申し訳ないが気持ちに変わりはない。短い間でしたが、(お辞儀)お世話になりました。みんなも頑張つて。夢叶うといいな。それじゃ。

と言って去っていく。
しばし沈黙。

久美子 余計なこと？

富野 古元さんのやっかみだよ。気にすんな。

と言って、富野、久美子の肩を触る。

翠 触らないで。

富野 え？

翠 その人に触らないで。

富野 なんだよ。どうしたんだよ？

翠 小峯さん。

久美子 え？なに怖い。

翠 どうやって仕事もらってきたの？

久美子 は？だからそれは今、

翠 どうやって衿川さんを手なずけてきたの？

久美子 手なずけて？

富野 どうしたんだよ翠？

江渡 翠さん？

と言って翠に近付く。

翠、持ってた手帳か何かで江渡を払う。

富野

おい翠。なにやってんだ？

私、PRの仕事に誇りを持ってます。社長が言うように、これからは戦略PRが重要だって私もそう思ってるから。クライアントの企業や商品を、どうすれば取り上げてもらえるか、どうすればブームを作ることができるか、一生懸命企画考えて、メディアと何度も何度も交渉して、やっと露出に結び付ける。そういう地味なことを繰り返してるのがPRウーマンなの。

富野

分かってるよ。今さらそんなこと言わなくてもさ。

翠

今回のサーチに押し込むことができたのも、何度も衿川さんに提案資料送って、プレゼンして、やっとウンこれならって言わせたの。

富野

だから俺は評価してるだろ。露出が流れたのは事故だ。翠が悪いんじゃない。

翠

それを、たった一晩で、あの衿川さんの、約束を取り付けた。

富野

PRってのいうのはタイミングが命だから、たまたま衿川さんが考えてたことと、小峯の営業が合致したってことだから、お前がそんな自虐的になる必要はない。

翠

女を使ったの？

しばし沈黙。

富野 え？

翠 衿川さんと寝たの？

久美子

翠 私さ、そういう人許せないのね。そういうことから、PR会社は何でもするって見下されんだよ。企画でしょ。私たちが勝負してんのは。

久美子

翠 寝たんでしょ？

久美子

翠 枕営業って、そんなの営業でもなんでもない。あなたのせいで私も同じような目で見られるんだよ。もう東テレ行けないじゃん。

富野

翠

（久美子に）そうなのか？
そうに決まってんじゃないん。じゃないとあの衿川さんの気持ち変えられないって。ホントそういう人許せないの私。

富野

小峯？

富野、久美子に近付き肩を触ろうとする。

翠

触らないで。（富野、固まる）触らないで気持ち悪い
…ああんかイライラする。

富野

（翠に）落ち着けよ。

と言って、翠に近付く。

翠

（後ずさりして）ごめんなさい。今日はもう失礼します。気分が悪いから。

富野

翠 （生返事）。
失礼します。

翠、去る。

富野、この状況に逡巡するが、やがて翠を追いかける。

残された2人、呆然としている。

久美子 江渡くん。

江渡 はい？

久美子 私寝てないよ。

江渡 え？

久美子 信じてもらえないかもしれないけど。

江渡 ……信じますよ。

久美子 ありがとう。

江渡 でも……真実は違うんです。

久美子 え？

江渡 真実は翠さんの中にあるんです。

久美子

江渡 例え寝てなくても、翠さんが信じなければ、寝たことにはなるんですよ。

久美子 ……そうね。

江渡 そして真実かどうかはともかく、あの2人が特別な

関係だってことが、

久美子

！

江渡 僕の中で真実になりました…お互い、この会社にいれないかもですね。

うなだれる2人。
暗転。

#B3

明華と佐久が廊下にいる。
佐久、明華を会議室に押し込む。
そしてドアを閉める。

明華 なんですか？
佐久 まあちよつと座つて。
明華 もうすぐ衿川さん来ますよ。
佐久 分かつてる。だから。
明華 (座る) なんですか？

佐久、企画書を明華に見せる。

明華 さくらカフェ？
佐久 知ってる？
明華 最近できたコーヒーチェーンですよ？渋谷のお店
佐久 行ったことあります。
明華 あそう。
佐久 これがどうしたんですか？
明華 今日の企画会議で、これ推して欲しいんだよ。
明華 え？

佐久 来週のトレンドコーナー。面白いと思わない？
明華 へえ。あでも私もネタを持ってきました。

と言って、企画書を出そうとする。

佐久 それは、今度にしよう。
明華 へ？
佐久 今回はこの案だけを推そう。
明華 なんにも出さなかったら、私が怒られるじゃないですか。
佐久 そんなときは俺がちゃんと守るから。な？頼む。
明華 えー？これをふたりで？
佐久 そ。
明華 なんですか？
明華 うん。ソーシャルワークスから提案もらってさ、俺
佐久 はいいい企画だつて思ったんだよね。
明華 でも一案だけつて。衿川さん怒りますよ。
明華 だから協力して欲しいんだよ。ふたりで吟味した結果、この企画が一番相応しいと思った。っていうかこれしかないと確信した。そういうことにして欲しいんだよ。
明華 …まさかソーシャルワークスとなんかあったんですか？
佐久 それはない。ただいい人たちでき、力になりたいなあって思つて。

しばし沈黙。

佐久 今里Pにお願いしてあげるよ。
明華 え？まこさん？

佐久 戻りたいんでしょう？ドラマ班。

明華 (喜んで) はい。

佐久 お前を引っ張るよう、お願いしてあげるよ。

明華 ホントですか？

佐久 もちろん。そうでもしないと、異動できないっしょ？

明華 どうすればいいか、正直困ってたんです。

佐久 だったら協力してくれない？

明華 ……

佐久 ね？お願い。

明華 ……

佐久 衿川さん説得するの、2人じゃないとき。

明華 ですよね。

佐久 頼むよ。榛葉。

明華 (しばし考え) 分かりました。

佐久 マジ？助かるわー。ありがとう。

明華 何すればいいんですか？

佐久 えっとね、まあとにかく、

衿川が入ってくる。

2人 (ピツとして) お疲れ様です。

衿川、ドスツとイスに座る。

全部員がいないことにムツとする。

衿川 岡本、前田は？

明華 岡本さんは遅れてきます。前田さんはロケハンで新

潟出張です。

衿川 ふたりしかいないの？

2人 はい。

衿川 大事な企画会議に？

佐久 すいません。

衿川 (舌打ち) ……ま、しょうがねえか。

2人 ……よし、じゃあやろう。一時間一本勝負。

衿川 はい。

2人 えっと、じゃあまず来週のトレンドコーナー。

佐久 はい。企画持つてきました。

と言って、企画書を出そうとする。

衿川 ああいやいやいやいやいやいや。それ、次の次のネタにして。

佐久 え？

衿川 例の田村屋のハーフ肉まん、あれやるから。

佐久 ええ？

衿川 昨日あれからあの子と飲んだろ。まあ色々提案もら

佐久 つてき、イケるって企画があんだよ。

衿川 あれは中国産で、右翼から抗議くるかもしれないっ

て。

衿川 そうだけどな。まあそうだけど、ただ中国生まれの肉まんが日本人の胃袋を満たしてるってなれば、逆に日中友好の架け橋になんだって、そういう風と言

えないか？言えんだろ。な？そういう特集にすればクリアできんだろ。

佐久 (明華に) お前はと思う？

明華 どうですかね。強引すぎないですかね。

佐久 もっとはっきり言えよ。

明華 え？あはい。

衿川 (頭が) 堅いよ堅い。もっと柔らかくしろ。食文化

と社会問題掛け合わせたら、どうなるかって、想像

力足らないよお前ら。テレビマンだろがよー。

でもそこまで視聴者に伝わりますかね？

あ？

明華 I Q 高いっていうか。F 2 が理解してくれますか

ね？食文化かける社会問題。

衿川 バカ。理解してくれませうかねじゃねえよ。理解でき

るように作るんだろがよー俺たちがさ。

明華 もちろんそうですけど、おばちゃんはB C G なんて

すよね？

衿川 そうだよ。

明華 お言葉ですが、B でもC でもG でもない気がするん

ですけど。

衿川 だからお前はまだまだ半人前だつうんだよ。いい

か。食文化って視点で括ればC にもなんだよ。中国

で昔から愛されてきた肉まんが、大正時代、海を渡

って日本にやってきた。そんな時のレシ。再現してす

ればCooking になんだろうがよー。

明華 でもそれは肉まんそのものであって、田村屋のハ

ーフ肉まんじゃないですよ？

衿川 分かってんじゃないよ。

明華 衿川

は、はい。

そこで現代日本の話にする。今、おばちゃんの間で流行っている肉まんがある。カロリーハーフの肉まん、つまり田村屋のハーフ肉まんってわけだ。カロリーを気にするおばちゃんに大流行ってすれば、Beauty になんだろうがよー。

明華 衿川

そういうことですか。

中国発祥の歴史から現代日本をつなぐ食文化として肉まんを紹介する。で、今流行ってんのが、田村屋のハーフ肉まんって流れにすれば、トレンドコーナ

ーで取り上げる意味もあんだらうがよー。

明華 佐久

ありますね。

衿川 佐久

ちよっと待ってください。

衿川 佐久

なんだよ？

明華 衿川

今、中国関係のネタ使うのはリスクすぎます。

佐久 衿川

私は正直反対です。

明華 佐久

は？

明華 佐久

中国の情勢が落ち着いてからでも、遅くはないと思います。(明華に) お前はと思う？

明華 佐久

はい。私も佐久さんに同感です。

明華 佐久

そうだよな？

明華 佐久

はい。やっぱり今はリスクだと思えます。

明華 佐久

何か問題があつてからでは遅いんです。来週は他のネタにすべきです。

明華 佐久

他ってなんだよ？

明華 佐久

はい。ふたりに企画を考えてきました。自信があります。見てください。

明華　　お願いします。

佐久、企画書を衿川に差し出す。
それを受け取り。パラパラと見る。

衿川　これをなんで今やんの？

佐久　はい。今、F2にとってさくらカフェがひとつのコミュニティスペースになってるんです。それはさくらカフェが女性専用スペースを設けたことで、今までは自宅に招いてしていた奥様同士のお茶会をここでするようになったってことだと思っんです。

衿川　そんなことあこれ（企画書）見りゃわかるよ。

佐久　ええ。ですから、

衿川　俺が聞いてるのは、なんでこれを、今、やんのかってこと。

佐久　え？

衿川　だから、このネタを今やる必然性はなんなのかって言ってるの。

佐久

衿川　俺は言ったよね。日中問題がこじれてる今だからこそ、ハーフ肉まん取り上げる意味があるって。そう言う意味で、これはなんなの？

佐久、明華を見る。

明華　女子会が主婦にも広がってきたってことじゃないですか。

衿川　…ほお。

明華　女子会って学生やOLさんが中心じゃないですか。主婦もやりたいんですよ女子会。

衿川

明華　でも夜は出れないじゃないですか。家族がいるから。だから昼間、さくらカフェで女子会するんですよ主婦は。

衿川　なるほど。

明華、ファイルから自分の企画書を取り出す。

佐久、慌てるが何もできない。

明華　これ、私の企画書なんです。

衿川、企画書をパラパラめくる。

明華

衿川さん、前に言いました。F2はスマホに興味ないって。それで私、調べたんです。ホントかなーって。そんなことないんじゃないかなーって。確かに他の世代に比べると低いですが、でも確実に増えているんです。興味はあるんですよ。彼女たちもスマホに。

衿川　これお前が自分で調べたのか？

明華　はい。店頭に行ってヒアリングもしました。最近40代の女性もスマホを買っていくんだそうです。

衿川　だから？

明華　SNSですよ。フェイスブックやLINEで繋がるとその場で女子会が成立するんです。今から会わない？みたいなの。

うん。
だからさくらカフェなんです。いきなり呼べないじゃないですか。自宅には。
面白い仮説だ。
この仮説が正しければ、今、特集する意味、あるんじゃないですか。
：
ありますよね？
確かにな。
じゃあ。
はい。
再来週はこれでいこう。
え？
来週は肉まんていく。これは決定。
だって今、これ面白いって。
いいか。このネタは再来週でもいけるけど、肉まんは再来週だと腐るんだよ。日中問題が匂すぎてさ。だから来週のトレンドコーナーは田村屋のハーフ肉まん。何度も言うがこれは決定だ。いいな？
納得できません。そんなリスクなネタ。考え直してください。
責任とんのはおめえじゃねえだろうがよー。俺だよ俺。いいか。その俺が肉まんていくつうんだからいいんだよ。な。

しばし沈黙。

佐川 衿川さん、もしかして…あの、ちょっと言いにくいんですが。
衿川 いいよ。なんだよ？
佐川 昨日の女と、その、なんていうか。
衿川 したよ。うん。
：
男と女が朝まで一緒にいたら、そうなっちゃうよね。
明華 え？昨日の？あの？
衿川 うん。久美ちゃん。真面目な、いい子だよあの子。
明華 あーそうだったんですかー。
佐川 やっぱり。
明華 まあそれはそれ。これはこれだけだな。
明華 え？
佐川 言っとくけど、それで来週肉まんにするってことじゃねえかな。
佐川 違うんですか？
佐川 違うよお前。そんなことで番組内容変えたら、プロじゃねえだろうがよー。
明華 はあ。
佐川 ん？お前そんなこと勘ぐったのか？
：
俺にとつてサーチはな、初めてプロデューサー任せれた大事な番組なわけ。分身だよ俺の。
明華 あの、その話もう何度も聞いてます。
明華 何度でも聞くんだよ。うるせえな。
明華 すいません。
明華 その俺の分身でもあるサーチをな、俺が、自分で、汚すわきゃねえだろう。

古元 お金返せば済むとかそういうことじゃねんだよ。俺の人生掛かってんだよ。

佐久、電話を切る。

古元 ちよっとおい。佐久：（舌打ち）あの野郎。

と言って走り去る。

2人のフリーズ解除。

会議終わりの風景。茫然自失の佐久。

衿川 さっきのお前の仮説、面白かったよ。

え？

：

なんて言ったんですか？

なんでもねえよ。

：ありがとうございます。

（舌打ち）：ドラマやりたいんだって？

え？ああまあはい。

いいか。俺たちが作ってんのもドラマだよ。ノンフィクションだけだな。見つけんだよ。ドラマをさ。

さっきのお前の話みたいによ。：俺は、ノンフィクションの方が面白いと思うけどな。

：

どうするよ？

え？

：

ドラマのPに話通そうっか？

ええ？

明華

衿川

衿川 考えとけ。

衿川、去る。

取り残された2人。

明華 すいません佐久さん。力になれなくて。

佐久 いいよ。

2人、会議室を出ながら、

明華 私。

佐久 ーん？

明華 ドラマがやりたくなりました。

佐久 知ってるよ。今さら何言ってるんだよ。

明華 フィクションじゃなくて、ノンフィクションなんですけど。

2人、奥に消える。

#A4

富野、入ってきて、倒れるように椅子に座る。

そこに江渡が入ってくる。

仕事しなくていいんすか？

そんな気分じゃない。

：田村屋に行ってきました。

ご苦労さま。

サーチに露出できたこと、ホントに喜んでました。

江渡

富野

江渡

富野

江渡

富野 それは良かった。
江渡 本当なら小峯さんが報告すべきなんですけどね。
富野 いないんじゃないだろう。

しばし沈黙。

江渡 翠さんから連絡ありました？

富野 いや。

江渡 まだ実家なんすかね？

富野 さあ。

しばし沈黙。

富野 お前も辞めていいぞ。

江渡 ……僕が辞めたらどうするんですか？

富野 とりあえず会社は畳むな。

江渡 じゃあ辞めなかったら？

富野 どっちにしる潰れんだから同じだよ。

しばし沈黙。

江渡 残念です。

富野 俺もだよ。

江渡 富野さんがそんなんで。

富野 ……

江渡 僕、この会社が好きで、この会社を大きくするため

に頑張ろうって心の底から思っていました。だから企画も寝ないで頑張ったし、給料下げられても頑張る

うってホントに思っていました…営業初日の日、富野さんはこう言いましたよね？

江渡なりに再現する富野のあの日。

江渡

いよいよ今日からこの会社の歴史が始まる。クインテットPRは俺の会社じゃない。俺たちの会社だ。名目上俺が代表ってなってるけど、それはあくまで名目上。実際はみんなひとりひとりがこの会社の未来を作る立場にある。そのくらいの気概と覚悟を持って、全力で仕事をして欲しい。だから思ったことは遠慮せず、何でも言い合える会社にしよう。みんながいいと思ったアイディアはどんどん採用する会社にしよう。そういうことを積極的に言い合える会社にしよう。それがCEOとしての俺の唯一のお願い…(笑)

富野

江渡

(苦笑) よく覚えてんな。だから僕は、思ったことはなんでも、それこそ遠慮せず、富野さんに言ってきました。

富野

江渡

ありがとう。お前にはホント感謝してる。でも実は俺、富野さんに言っていないことが、ひとつだけあるんです。

富野

なんだよ？

富野

見つめあったまま長い長い間。その間、言うか言うまいか悩む江渡。やがて決意し、静かに口を開く。

江渡
富野

もう一度やり直しませんか？
え？

クインテットPR。

江渡、出て行く。

下を向いたまま固まっている富野。
やがて力強く顔を上げる。

暗転。
幕。